

会議名称：平成30年度1月期古賀市社会教育委員の会議

日 時：平成31年1月24日（木） 19時～20時30分

場 所：古賀市役所 第2委員会室

主な議題：①第6回古賀市生涯学習笑顔のつどいについて

傍聴者数：なし

出席者：松本委員、松末委員、角森委員、國友委員、上野委員
檜山委員、村山委員、平島委員、井浦委員、船越委員
（以上委員10名）

中村生涯学習推進課長、柴田参事補佐、森田

欠席者：なし

事務局：生涯学習推進課社会教育振興係

配布資料：レジュメ

会議内容：以下のとおり

松本議長：

皆さんこんばんは。定刻になりましたので会議を始めます。本日は、「2. 第6回古賀市生涯学習笑顔のつどいについて」協議を進めたいと思います。

1月16日水曜日に、12月社会教育委員の会議で出た皆さんの意見を基に、私と副議長と事務局の間で会議を行いました。その会議の結果をもとに、第6回古賀市生涯学習笑顔のつどいについて原案を作成いたしましたので、皆さんからご意見をいただきたいと思います。それでは提案を副議長からお願いいたします。

松末副議長：

（松末副議長より、第6回古賀市生涯学習笑顔のつどいの原案について説明。）

松本議長：

今副議長から提案していただいた内容は、皆様にも資料としてお配りしております。原案には、12月の会議の中でも多く声があがりましたテーマの具体化および、開催形式の全体会と分科会形式への変更という意見を反映させており、1つのテーマについて理解を深め、課題解決型のつどいを目指します。その中で、本日は第6回古賀市生涯学習笑顔のつどいの趣旨、テーマ、そしてプログラムについて社会教育委員の会議としての合意形成を図りたいと思います。ご意見、ご質問があればお願いいたします。

國友委員：

冒頭の趣旨の部分ですが、笑顔のつどいが何を目的として実施されたのかは書いてありますが、具体的に何をを行ったという部分には触れていません。ですので、社会教育関係団体に活動内容の発表を行ってもらったという実態を入れる必要があると思います。また、今までは社会教育関係団体による発表を通

した、参加者同士の交流を主な目的としてきましたが、今後はさらに課題解決型へと向かうといった流れがわかるように、記載するといいかと思います。

松末副議長：

五年間で実際に発表していただいた団体数も記載したほうがいいかもしれませんね。

松本議長：

多く声があがってありましたテーマの具体化についてですが、第6回生涯学習笑顔のつどいのテーマは青少年の健全育成を取り上げるのがいいのではという意見が非常に多く出ておりました。テーマおよび、資料に記載しております文章についても何かご意見があればお願いいたします。

井浦委員：

テーマを絞ることには私も賛成します。それで、つどいのテーマの説明箇所についてですが、少子化、価値観の多様化等については、これ自体を古賀市の現状としてとらえるか、社会的課題としてとらえるかで受け取り方が変わると思います。ですので、前段としてこの内容を社会的課題という大きな枠組みでとらえ、古賀市においても実際どのような傾向があるかを説明したほうがいいかと思います。

上野委員：

先ほどの井浦委員の話と重複する部分もありますが、社会的課題と古賀市の現状を記載するにあたってはそれぞれの主語を明記することで、より分かりやすくなるかと思います。

國友委員：

これは地域によっても異なるかとは思いますが、私の場合、自分の周囲の自治会や子ども会の状況を見てもみますと、テーマの選定において挙げられた社会的課題は本当に小さな傾向なのかという疑問はありません。

事務局：

例えば子どもの孤立化、子育ての孤立化などは本市においても積極的に支援を行っている部署がありまして、その中ではパーセンテージだけでは測ることのできない孤立化の背景があります。このことを視野に入れますと、これは小さな傾向ではないと考えます。このことと、地域で子育てを行うということは、今回のつどいのテーマともリンクするのではないかと考えております。上野委員がおっしゃったように全国的な傾向もありますが、古賀市においても少なからずこのような傾向はみられるのではないかと考えております。

松本議長：

古賀市としても資料に記載した社会的な現象傾向がみられ、それが進行していることは事実です。この

表現方法については修正したいと思います。

では次に開催形式について、話を進めたいと思います。従来のごとくとは異なり、来年度のごとくにおいては最初に全体会を実施します。全体会における実践発表の後に、井浦先生に助言者として話をまとめていただくとともに、テーマについての問題提起をしていただきます。その後各分科会に分かれ、分科会ごとに出演団体の皆さんには発表をしていただき、その中で課題の柱を参加者とともに協議することで深めていく、解決の方向性を見出していくという形式で実施しようかと考えております。このことについて、ご意見をお願いいたします。

國友委員：

社会教育委員として参加させていただいております、各研修においてもそうなのですが、その形式としては全体会を実施した後に分科会を実施しているのが一般的かと思います。今回テーマを具体化するということもあり、地域における子育て支援について、全体会において実践発表と助言者による問題提起を行うことで、分科会において古賀市の現状をふまえ、課題解決のための意見交流をすることは大きな意味を持つのかなと思います。ただし、資料を見ますと、全体会における問題提起が可能な団体を2団体と、テーマに即した実践発表が可能な団体を4団体発掘し、全体の組み立てを行う必要がありますので、早めに動き出す必要があるかと考えております。

角森委員：

時間がないかもしれませんが、分科会で出た意見をもとに、最後に再度全体会を実施し、意見交流をすることも一つの手かとは思っています。

松末副議長：

時間については半日研修を徹底した場合難しいかと思っておりますので、その場合は誌上報告を検討しております。

村山委員：

古賀市の現状を踏まえたくらんで、課題について考えていくわけですよね。課題解決を目的として活動を実施するにあたって、その活動は非常に困難を極めると考えます。ですので、参加団体の中には徐々に人数が減少していたり、活動が厳しい状況に追い込まれつつある団体もいらっしゃるかと思います。この場合、実践報告の際には成功体験を発表するか、社会の変化に伴って活動が難しくなっている現状についての様に考えているかを発表していただくか、どうするかについては念入りに打ち合わせておく必要があるかと考えます。

國友委員：

縮小傾向にあった参加者の増加を狙うためにも、様々な年代や組織の人に周知を行い、実際に足を運んでもらえるようにするにはどうしたらいいでしょうか。例えば最近では、自治会によっては子育てサロン

等の活動を開始している自治会も見られます。そういった自治会や、PTCAの方々など、実際に子育て支援の活動をされている、様々な組織の方に来てもらえるようにするには、発表団体の選定が重要になるかと思います。

松本議長：

趣旨については概ね了承を得られたということによろしいでしょうか。ただし、文言等については多数のご意見をいただきましたので、精査したうえで提言案に活かしたいと思います。この形式が軌道に乗るようでしたら、市外からの特徴的な活動を実践されている団体に、発表をしていただくという広がりを見せることも可能かと考えております。

上野委員：

地域で子育てというテーマで現在話を進めておりますが、子どもというのは小学生、中学生、高校生を中心とした話でよろしいのでしょうか。乳幼児に焦点を当てた場合、地域における支援活動は、青少年を対象としたものとは少し変わってくると思いますので。

事務局：

地域で子育てサロンが徐々に増えてきておりまして、自治会の中には高齢者のつどいとセットで子育てサロンを実施する自治会も出てきております。乳幼児を実際に育ててあるお母さんたちと地域とのつながりも始まったばかりであり、そういった部分に焦点を当てることも一つ意味があると思います。あるいは、通学合宿のような小学生以上を対象とした事業による子育て支援に焦点を当てることも一つの手だと考えます。

松末副議長：

小学生に焦点を当てた場合、育成会や市子連も様々な活動を行っていますが、たくさんの課題をお持ちでしょうし、それに対する青少年育成課からの視点などもあってもいいかと思います。

また、地域で実際に活動をしていた思ったことですが、中学生の保護者は地域の中で夜間パトロールという形で地域とのかかわりを持つことができるんですが、その後の世代である高校生以降の保護者はほとんど接点がなくなります。そういった世代をどうやって引き留めるかという、やはり小さい頃から地域と接点を持つことが必要になると思います。幅は広がるかもしれませんが、循環する社会を形成するにあたって、世代を追っていくという流れを長いスパンで考えながら、つどいの構成を考えていくことも重要かと思います。

村山委員：

特定の組織及び団体に加入していない方についてはどのように考えましょうか。学びたい意欲は持っても、組織に加わって活動はしたくないという考え方の人もいらっしゃると思います。研修や催事においても、本人の興味がある部分、楽しい部分のみ参加して、そうでない部分は退出するといった方もいら

っしゃいます。そういった方にも最初から最後まで研修を楽しんでもらうための工夫も必要なのではないのでしょうか。

船越委員

社会教育って、赤ちゃんが生まれてから高齢者になって死ぬまで、すべての人の教育の場だと思います。せっかくのつどいですので、出演団体にも、参加者にも様々な世代の方々が積極的に参加できるようなつどいにできたらと思います。そうなってくると、分科会の時間は1時間でも足りないくらいだと思います。

檜山委員：

一度にたくさんの団体を呼ぶことで、新たな視点に気づく機会は多くあるかと思いますが、一方でテーマが不透明になることも危惧されます。ですので、第6回については、例えばテーマを乳幼児の子育て支援に絞り、発表団体もテーマに即した活動を実施していらっしゃる方に限定することで、参加者の中で、本当にその情報を必要としていらっしゃる方に、必要な情報が伝わるかと思います。集客にこだわるのではなく、情報を必要としている方に一人でも二人でも的確な情報提供ができるようなつどいになると思います。

松本議長：

皆さん貴重なご意見ありがとうございます。社会全体で子どもたちの成長を支えていくということを基本にしつつ、社会的な存在である子どもたちを、様々な年齢の方々が見守り、その中で継続して実施している活動について発表いただきたいと思います。

では、「3、その他」に移ります。事務局からお願いします。

(事務局より、市長、教育長と社会教育委員の懇談会について案内。)

松本議長：

それでは終わりの言葉を松末副議長お願いします。

松末副議長：

お疲れ様でした。